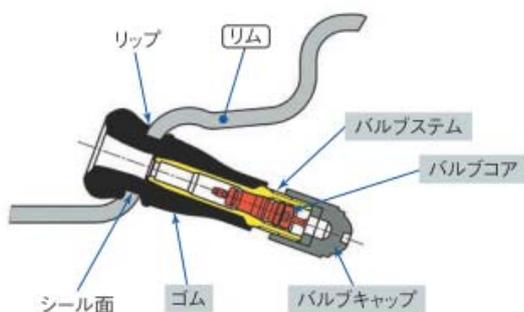


チューブレスバルブを正しくご使用いただくために

チューブレスバルブは小さな部品ですが、あなたとあなたの車の安全を守る大切な役割を担っています。

チューブレスバルブはオゾンや雨水、高温や低温、走行中の遠心力や衝撃など厳しい環境にさらされており、長期間使用すると劣化し、タイヤの空気もれや、事故の原因にもなりかねません。

車両・タイヤの点検時にはチューブレスバルブの点検をお願いします。



警告

- タイヤ交換時にはチューブレスバルブも必ず新品へ交換してください。
- 一度取り外されたチューブレスバルブは、絶対に再使用しないでください。
- 車両・タイヤの点検時には、チューブレスバルブに変形、キズ、亀裂やバルブ口（バルブコア）、バルブとホイールのシール部からの空気もれがないかを点検してください。異常を発見した場合には、速やかにタイヤ販売店などの専門業者による点検を受けてください。
- 必ずバルブキャップを装着してください。バルブキャップがないと、雨水や異物がバルブ内部へ入り、空気もれやバルブの損傷が発生することがあります。

チューブレスバルブを正しくご使用いただくために、必ずお読みください。

◆チューブレスバルブの点検・交換について



○チューブレスバルブはゴム製品につき長期間使用すると劣化し、空気もれが起こりやすくなります。

- ・タイヤ交換時にはチューブレスバルブも必ず新品へ交換してください。
- ・タイヤ点検時には、チューブレスバルブに変形、キズ、亀裂やバルブ口(バルブコア)、バルブとホイールのシール部からの空気もれがないかを点検してください。
- ・異常を発見した場合は、速やかにタイヤ販売店などの専門業者による点検を受けてください。



バルブとホイールのシール部からの空気もれは、写真のように、バルブを上下・左右に傾けながら確認してください。
(傾け角度は 25 度までとしてください)



○装着されたチューブレスバルブは、絶対に回さないでください。

- ・ホイールに装着されたチューブレスバルブは、ホイール形状にならってなじんでおり、バルブが回転して位置が変わると、リム穴との間にすき間ができ、空気もれが発生する恐れがあります。



道具などを使ってキャップを過大な力で締めつけたり、写真のようにバルブを円周方向に回転させないでください。

- 応急パンク修理剤を使用した場合には、チューブレスバルブを新品へ交換してください。
- 車両メーカーがオーナーズマニュアル等に記載している場合もありますので、その記載内容についてもご確認ください。

◆チューブレスバルブ選定時の注意



○チューブレスバルブは車両・ホイールに適合したものを使用してください。

- ・交換時には新車または新品のホイールに装着されていたものと同じタイプを使用してください。
- ・空気圧が 450kPa を超えるタイヤ、速度が 210km/h を超える車両にはスナップインタイプではなく、クランプイン(ナット締め)タイプを使用してください。

◆チューブレスバルブ装着時の注意

○チューブレスバルブの外観に変形、キズ、亀裂などが無いことを確認してから装着してください。



○一度取り外されたチューブレスバルブは、絶対に再使用しないでください。



○タイヤおよびバルブ交換時には、空気を充填後、バルブキャップを取り付ける前に、バルブ口(バルブコア)、ホイールとの勘合部、バルブまわりから空気もれがないことを確認後、必ずバルブキャップを装着し、しっかり締め付けてください。

○ホイールキャップを装着するときは、チューブレスバルブがバルブ穴の中心に出るように装着してください。



○クランプイン(ナット締め)タイプのバルブのナットは適正トルクで締め付けてください。

・適正トルクは、リム穴径φ11.5mm用の場合、 $2.0 \pm 0.5 \text{N} \cdot \text{m}$ です。

◆バルブコアについての注意

- 使用されたバルブから取り外されたバルブコアは再使用しないで下さい。
- バルブコアを締付ける際にはトルク管理ができるドライバーの使用をお奨めします。適正締付トルクは $29 \text{N} \cdot \text{cm}$ です。
- 空気充填後にバルブコアから空気もれが発生した場合は、バルブコアの軸を 2~3 回押し、空気の噴出により異物を排出させることで、多くの場合空気もれを止めることができます。

◆バルブキャップについての注意



○必ずバルブキャップを装着してください。バルブキャップがないと、雨水や異物がバルブ内部へ入り、空気もれやバルブの損傷が発生することがあります。

- バルブキャップはゴムパッキンが内蔵されたタイプを推奨します。
- バルブキャップは新品に装着されていたものと同じものを使用してください。
黄銅製のバルブにアルミ製のキャップを装着すると、腐食(電食)が生じ、キャップが固着して外れなくなる可能性があります。

◆チューブレスバルブ保管時の注意

- チューブレスバルブは、直射日光、雨および水、油類、有機溶剤、熱源などを避けて保管してください。室温 40°C 以下、湿度 30%以下の環境をお奨めします。
- 保管期間はできるだけ短くし、製造後 2 年以内には使用してください。
(ここに記した 2 年という年数は、あくまで目安であって、環境条件・保管条件によって変動する場合があります、バルブの品質保証期間・期限を示すものではありません)

製造年月の確認方法

当社のチューブレスバルブ(TR413、TR414)には写真のようにゴム部分に製造年月が刻印されています。

アルファベットは製造月を、数字は製造年(西暦の末尾)を示しています。

アルファベット	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M
製造月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12



アルファベット:月

数字:年

タイヤバルブに関するお問合せ・ご相談

太平洋工業株式会社

TEL 0584-28-0105

FAX 0584-28-0110

e-mail v-sales@pacific-ind.co.jp